すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow

<u>ホーム</u> > Pandas > Pandasのgroupbyを使った要素をグループ化して処理をする方法

2018-08-27

# Pandasのgroupbyを使った要素をグループ化 して処理をする方法

ツイート いいね! シェ

#### グループ分けした処理の概要

#### groupby関数を使ってデータをグループ分けする(Splitting)

- 列データからグループ分け
- 複数の列データから作成
- <u>Indexの値を使う</u>
- MultiIndexでグループ分け
- GroupByオブジェクトの中身を確認する
- GroupByオブジェクトをイテレータとして扱う
- 特定の列データを指定する

#### グループごとに処理を実行する(Applying)

- Pandasの組み込み関数を使う
- apply関数を使って適用させる
- 複数の関数を一度に適用させる
- 列ごとに処理を指定する
- <u>transform関数を使ったデータ整形</u>
- フィルタリング

#### グラフにプロットする

まとめ

すべて

Numpy

ビッグデータ

機械学習

人工知能

ディープラーニン

TensorFlow

これはデータをある列データなどを基準にグルーピングして処理を行うために使います。例えば、事業部ごとの売上や、年代別での成績などを算出する場合に使うことができます。

groupby関数を適用して返されるオブジェクトはGroupByオブジェクトと呼ばれ、それ単体では何もできませんがこれに他の関数を適用させることでグループごとに処理を実行させることが可能になります。

SQLでの GROUP BY 処理をベースにしたものになるので、SQLを触ったことのある人には抵抗なく受け入れることのできる関数だと思いますが、初めてみる人には最初想像がつきにくい関数だと思います。

### そこで本記事では

- グループ分けした処理の概要
- groupby関数を使ったグルーピング
- グループごとに処理を実行する
- グラフのプロット

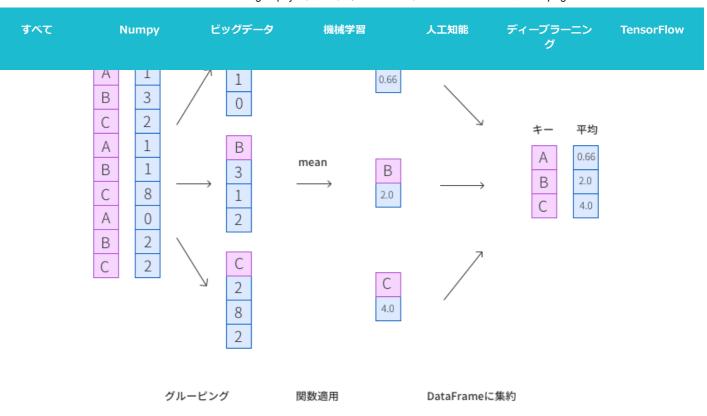
について解説していきます。

## グループ分けした処理の概要

groupby関数を使うことでどういったことが起こるのか、直感的に理解してみましょう。 例えばですが、以下のようにキーの値ごとの平均を求めたいとします。

下図をみてみると、まずキーの値ごとに値1をグループ分けします。

その後、それぞれのグループに対して 関数を適用します。 適用した結果を1つの配列にまとめて完成です。



groupby関数がやっていることはただのグループ分けで、その後の処理は我々の方で 自由に設定できます。

### 公式ドキュメントにも、Group Byを使った処理は

- Splitting:いくつかの階層を元にデータをグループ分けする
- Applying:それぞれのグループに関数を適用する
- Combining:適用された結果を結合して1つのデータにまとめる

### と記述されています。

この3ステップが基本となっており、 Applying ステップは更に以下のように大別できます。

• Aggregation:平均やデータ個数といったグループにおける統計量を計算す

すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow

• 上記3つの組み合わせ

グループ分けを使うとこのような処理が可能となるわけです。

それではSplitting とApplying のステップについて詳しくみていきます。

Combining に関してはこちらから指定することはあまりないので省略します。

# groupby関数を使ってデータをグループ分けする (Splitting)

まずは groupby 関数を使ってグループ分けを行なっていきましょう。

以下のようなデータを使います。

```
class, sex, weight, height, time
A, F, 45, 150, 85
A, M, 50, 160, 80
A, F, 55, 155, 74
B, M, 78, 180, 90
B, F, 51, 158, 65
B, M, 40, 155, 68
C, F, 80, 185, 90
C, M, 86, 175, 81
C, F, 52, 162, 73
```

このデータを sample group.csv の名前で保存します。

以下のリンクからファイルをダウンロード可能です。

sample group.csv

すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow グ

```
In [2]: dr = pd.read_csv("sample_group.csv") # まりはcsvノアイルを訳か込む
In [3]: df
Out[3]:
 class sex weight height time
            45
               150
                      85
   A F
   A
      M
            50
                160
                      80
   A F
           55
                155
                      74
           78
                 180
                      90
   B F
           51
                158
                      6.5
   B M 40
                155 68
  C F 80
                 185 90
    C M 86
                 175
                     81
    C F
            52
                 162
                      73
```

## 列データからグループ分け

groupby 関数を使ってGroupByオブジェクトを生成します。 まずは列データからグループオブジェクトを作成する方法です。 カラム名を指定します。

```
In [4]: class_groupby = df.groupby("class") # classでグループ分けする

In [5]: class_groupby # GroupByオブジェクトになる。
Out[5]: <pandas.core.groupby.groupby.DataFrameGroupBy object at 0x10cb91a58>

In [6]: class_groupby.groups # グループの内訳を見ることができる
Out[6]:
{'A': Int64Index([0, 1, 2], dtype='int64'),
    'B': Int64Index([3, 4, 5], dtype='int64'),
    'C': Int64Index([6, 7, 8], dtype='int64')}
```

す	べて	Numpy		ビッグデータ		機械学習	人工知能	ディープラーニン グ	TensorFlow	
	0	А	F	45	150	85				
	1	A	М	50	160	80				
	2	А	F	55	155	74				

### 複数の列データから作成

複数のラベルを引き渡すことも可能です。

```
In [9]: multi groupby = df.groupby(["class", "sex"])
In [10]: multi_groupby.groups
Out[10]:
{('A', 'F'): Int64Index([0, 2], dtype='int64'),
 ('A', 'M'): Int64Index([1], dtype='int64'),
 ('B', 'F'): Int64Index([4], dtype='int64'),
 ('B', 'M'): Int64Index([3, 5], dtype='int64'),
 ('C', 'F'): Int64Index([6, 8], dtype='int64'),
 ('C', 'M'): Int64Index([7], dtype='int64')}
In [11]: multi groupby.get group(('A','F'))
Out[11]:
 class sex weight height time
0 A F 45
                      150 85
                55
                       155
                             74
```

## Indexの値を使う

次にインデックスラベルの値を使っていきます。 まずは class の値をインデックスラベルにしましょう。

9,		'	vuilipy		) <del>, , – , ,</del>	<b>恢</b> 似于自	八工和能	グ	Tensorrio
	In [1	14]: i	ndex_df						
	Out[	14]:							
		sex	weight	height	time				
	class	5							
	A	F	45	150	85				
	А	М	50	160	80				
	А	F	55	155	74				
	В	М	78	180	90				
	В	F	51	158	65				
	В	М	40	155	68				
	С	F	80	185	90				
	С	М	86	175	81				
	С	F	52	162	73				

これをインデックスラベルの値を元にグループ分けすることが可能です。 Indexオブジェクトの name である "class" を指定するので列データを指定するのと同じ要領で行うことが可能です。 また、インデックスラベルの場合、 level=0 と指定することでもGroupByオブジェクトを作ることが可能です。

```
In [19]: index_groupby2 = index_df.groupby(level=0)

In [20]: index_groupby2.groups

Out[20]:

{'A': Index(['A', 'A', 'A'], dtype='object', name='class'),

'B': Index(['B', 'B', 'B'], dtype='object', name='class'),

'C': Index(['C', 'C', 'C'], dtype='object', name='class')}
```

## MultiIndexでグループ分け

今度はMultiIndexをラベルにもつデータをグループ分けします。

ビッグデータ機械学習人工知能

Numpy

J ' \ '			Numpy			1201/16 <b>7</b> El	ХТинс	グ	Tensorriow
	In [ZZ	(]: I	multi_ar						
	Out[22	2]:							
			weight	height	time				
	class	sex							
	A	F	45	150	85				
		М	50	160	80				
		F	55	155	74				
	В	М	78	180	90				
		F	51	158	65				
		М	40	155	68				
	С	F	80	185	90				
		М	86	175	81				
		F	52	162	73				

level 引数でMultiIndexの階層を指定します。

MultiIndexの詳しい解説はこちらから。 level 引数の指定の仕方が今ひとつわからない方もこちらの記事を読むと理解が深まると思います。

### PandasのMultiIndexについて理解する

/features/pandas-multiindex.html

```
In [23]: in_df = multi_df.groupby(level="sex") # level=-1かlevel=1でも可能

In [24]: in_df.groups

Out[24]:

{'F': MultiIndex(levels=[['A', 'B', 'C'], ['F', 'M']],

labels=[[0, 0, 1, 2, 2], [0, 0, 0, 0, 0]],

names=['class', 'sex']),
```

# Deepage AI知能の今と一歩先を発信するメディア

**TensorFlow** 

すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow グ

### 複数指定することも可能です。

すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow

```
labels=[[2], [1]],
            names=['class', 'sex'])}
In [33]: multi in group 2 = multi df.groupby(["class", "sex"])
In [34]: multi_in_group_2.groups
Out[34]:
{('A', 'F'): MultiIndex(levels=[['A', 'B', 'C'], ['F', 'M']],
            labels=[[0, 0], [0, 0]],
            names=['class', 'sex']),
 ('A', 'M'): MultiIndex(levels=[['A', 'B', 'C'], ['F', 'M']],
            labels=[[0], [1]],
            names=['class', 'sex']),
 ('B', 'F'): MultiIndex(levels=[['A', 'B', 'C'], ['F', 'M']],
            labels=[[1], [0]],
            names=['class', 'sex']),
 ('B', 'M'): MultiIndex(levels=[['A', 'B', 'C'], ['F', 'M']],
            labels=[[1, 1], [1, 1]],
            names=['class', 'sex']),
 ('C', 'F'): MultiIndex(levels=[['A', 'B', 'C'], ['F', 'M']],
            labels=[[2, 2], [0, 0]],
            names=['class', 'sex']),
 ('C', 'M'): MultiIndex(levels=[['A', 'B', 'C'], ['F', 'M']],
            labels=[[2], [1]],
            names=['class', 'sex'])}
```

## GroupByオブジェクトの中身を確認する

groupby 関数によって生成されたGroupByオブジェクトが意図したものになっているかどうかを調べるには属性を使って確かめることができます。



すべて

Numpy

ビッグデータ

機械学習

人工知能

ディープラーニン

TensorFlow

.get group (グループ名) でグループ内のデータを確かめることが可能です。

```
In [4]: class_groupby = df.groupby("class") # classでグループ分けする
In [5]: class_groupby # GroupByオブジェクトになる。
Out[5]: <pandas.core.groupby.groupby.DataFrameGroupBy object at 0x10cb91a58>
In [6]: class_groupby.groups # グループの内訳を見ることができる
Out[6]:
{'A': Int64Index([0, 1, 2], dtype='int64'),
'B': Int64Index([3, 4, 5], dtype='int64'),
 'C': Int64Index([6, 7, 8], dtype='int64')}
In [7]: class_groupby.get_group('A') # get_groupでグループ名を指定するとグループ内のデー
タを確認できる
Out[7]:
 class sex weight height time
   A F
             45
                    150
                         85
    A M
              50
                    160
                          80
    A
              55
                     155
                           74
```

## GroupByオブジェクトをイテレータとして扱う

イテレータとして使うことも可能です。

```
In [39]: for name, group in class_groupby: # nameでグループ名を受け取り、groupでグループの中身を受け取る

...: print(name)

...: print(group)
```

<b></b>	べて		Nu	тру	ビッグデ	·タ	機械学習	人工知能	ディープラーニン グ	TensorFlow
	2	А	F	55	155	74				
	В									
		class	sex	weight	height	time				
	3	В	М	78	180	90				
	4	В	F	51	158	65				
	5	В	М	40	155	68				
	С									
		class	sex	weight	height	time				
	6	С	F	80	185	90				
	7	С	M	86	175	81				
	8	С	F	52	162	73				

### 特定の列データを指定する

複数の列データが存在しているので、1つだけに指定します。 これは通常の DataFrameにおいて列データを指定する場合と変わりません。

```
In [49]: class_groupby['weight'].mean() # classでグループ分けしたデータの'weight'だけ取ってくる
Out[49]:
class
A 50.000000
B 56.333333
C 72.666667
Name: weight, dtype: float64
```

# グループごとに処理を実行する(Applying)



すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow グ

簡単なものとして mean 、 max 、 min 、 count 、 std でデータの概要を取得する関数があります。 .(関数) ですぐ使えます。

引き続き、以下のデータを使います。

```
In [40]: df
Out[40]:
class sex weight height time
  A F 45
           150 85
   A M 50
           160
       55 155 74
2 A F
  в м
         78
            180 90
  B F
        51
            158
                 65
  B M 40
            155 68
6 C F 80
            185 90
7 C M 86
           175 81
8 C F 52
             162 73
```

では "class" をキーにしてグループ分けをし、これらの関数を適用させていきます。

<b>j</b> /	べて	Nur	тру	ビッグ	データ	機械学習	人工知能	ディープラーニン グ	TensorFlow
	class								
	A	M	55	160	85				
	В	М	78	180	90				
	С	М	86	185	90				
	In [44		ss_group	by.coun	t()				
		sex 1	weight	height	time				
	class								
	A	3	3	3	3				
	В	3	3	3	3				
	С	3	3	3	3				

### describe 関数を使えば一挙に取得できます。

```
In [46]: class groupby.describe().stack() # データを縦に並べるためにstack()関数を使った
Out[46]:
               height
                         time
                                 weight
class
           3.000000 3.000000
     count
          155.000000 79.666667 50.000000
     mean
            5.000000 5.507571
                                5.000000
     std
     min
           150.000000 74.000000 45.000000
           152.500000 77.000000 47.500000
     25%
           155.000000 80.000000 50.000000
     50%
     75%
           157.500000 82.500000 52.500000
           160.000000 85.000000 55.000000
     max
     count 3.000000 3.000000
                                3.000000
          164.333333 74.333333 56.333333
     mean
```

すべて	Numpy l		ッグデータ	機械学習	人工知能	ディープラーニン グ	TensorFlo
	75%	169.000000	79.000000	64.500000			
	max	180.000000	90.000000	78.000000			
С	count	3.000000	3.000000	3.000000			
	mean	174.000000	81.333333	72.666667			
	std	11.532563	8.504901	18.147543			
	min	162.000000	73.000000	52.000000			
	25%	168.500000	77.000000	66.000000			
	50%	175.000000	81.000000	80.000000			
	75%	180.000000	85.500000	83.000000			
	max	185.000000	90.000000	86.000000			

複数ラベルがついているものについても同様です。 以下のGroupByオブジェクトを使用します。 "class"と"sex"の2つのキーを元にグループ分けされたものです。

ow



### 平均値と describe 関数を適用させてみます。

```
In [51]: multi_in_group.mean()
Out[51]:
         weight height time
class sex
         50.0 152.5 79.5
   F
          50.0 160.0 80.0
         51.0 158.0 65.0
   F
       59.0 167.5 79.0
       66.0 173.5 81.5
           86.0 175.0 81.0
In [52]: multi_in_group.describe().stack()
Out[52]:
                 weight
                          height
                                      time
class sex
   F count 2.000000 2.000000 2.000000
        mean 50.000000 152.500000 79.500000
        std
              7.071068 3.535534 7.778175
              45.000000 150.000000 74.000000
        min
              47.500000 151.250000 76.750000
        25%
        50%
              50.000000 152.500000 79.500000
        75%
              52.500000 153.750000 82.250000
             55.000000 155.000000 85.000000
        max
       count 1.000000 1.000000 1.000000
```

₫,	べて		Numpy	ビッグ	データ 特	幾械学習	人工知能	ディープラーニン グ	TensorFlow
			75%	50.000000	160.000000	80.000000			
			max	50.000000	160.000000	80.000000			
	В	F	count	1.000000	1.000000	1.000000			
			mean	51.000000	158.000000	65.000000			
			min	51.000000	158.000000	65.000000			
			25%	51.000000	158.000000	65.000000			
			50%	51.000000	158.000000	65.000000			
			75%	51.000000	158.000000	65.000000			
			max	51.000000	158.000000	65.000000			
		М	count	2.000000	2.000000	2.000000			
			mean	59.000000	167.500000	79.000000			
			std	26.870058	17.677670	15.556349			
			min	40.000000	155.000000	68.000000			
			25%	49.500000	161.250000	73.500000			
			50%	59.000000	167.500000	79.000000			
			75%	68.500000	173.750000	84.500000			
			max	78.000000	180.000000	90.000000			
	С	F	count	2.000000	2.000000	2.000000			
			mean	66.000000	173.500000	81.500000			
			std	19.798990	16.263456	12.020815			
			min	52.000000	162.000000	73.000000			
			25%	59.000000	167.750000	77.250000			
			50%	66.000000	173.500000	81.500000			
			75%	73.000000	179.250000	85.750000			
			max	80.000000	185.000000	90.000000			
		М	count	1.000000	1.000000	1.000000			
			mean	86.000000	175.000000	81.000000			
			min	86.000000	175.000000	81.000000			
			25%	86.000000	175.000000	81.000000			



すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow

使える組み込み関数の一覧は以下の通りです。

関数名	説明	
mean()	平均を計算します	
sum()	合計を計算します	
size()	グループの大きさを計算します	
count()	グループのデータの個数を計算します	
std()	標準偏差を計算します	
var()	分散を計算します	
sem()	平均値の標準誤差を計算します	
describe()	グループ内の統計量を返します	
first()	グループ内の先頭の値を返します	
last()	グループ内の最後の値を返します	
nth()	n番目の要素を返します。リストで指定することも可	
min()	最小値を返します	
max()	最大値を返します	

## apply関数を使って適用させる

apply 関数を使って処理を実行します。 apply 関数はグループ全体を引数として関数に渡すので注意してください。

In [53]: def max min(group):



辞書形式で出力させるとMultiIndexが出来上がります。

```
In [56]: def stats(group):
   ...: return {"mean" : group.mean(), "max": group.max(),
                  "min" : group.min(), "count" : group.count() }
In [57]: df.groupby("sex")["time"].apply(stats)
Out[57]:
sex
F count 5.00
    max 90.00
    mean 77.40
    min 65.00
M count 4.00
    max
           90.00
    mean
           79.75
    min
           68.00
Name: time, dtype: float64
```

## 複数の関数を一度に適用させる



人工知能

**TensorFlow** 

すべて

```
ディープラーニン
       Numpy
                  ビッグデータ 機械学習
in [59]: di.groupby("class")["weight"].agg([np.sum,np.mean])
Out[59]:
     sum mean
class
  150 50.000000
B 169 56.333333
    218 72.666667
```

### 列ごとに処理を指定する

agg 関数を使えば列ごとに処理を指定することも可能です。

辞書形式で指定していき、キーで列を指定し、値で処理を実行したい関数を指定し ます。

```
In [60]: df.groupby("class").agg({"weight": np.mean, "height": np.max,
                              "time": lambda x: np.std(x)})
   . . . :
   . . . :
Out[60]:
        weight time height
class
  50.000000 4.496913
                           160
B 56.333333 11.145502 180
      72.666667 6.944222 185
```

## transform関数を使ったデータ整形

transform関数を使ってデータの中身を処理します。

zscoreを計算してみましょう。

すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow グ

```
In [/3]: dr.groupby("class")["weight"].transform(zscore) # グルーフ内で処理
Out[73]:
0 -1.000000
   0.000000
2 1.000000
3 1.108080
   -0.272758
   -0.835322
   0.404095
   0.734718
8 -1.138813
Name: weight, dtype: float64
In [74]: df["weight"].transform(zscore) # データ全体で処理
Out[74]:
0 -0.866123
  -0.570854
  -0.275585
   1.082654
   -0.511800
   -1.161393
   1.200762
   1.555085
8 -0.452746
Name: weight, dtype: float64
```

## フィルタリング

グループごとにフィルターをかけていきましょう。 それぞれのグループの最大値の 一定割合より最小値が大きいグループだけを表示させます。



<b>す</b> /	べて	Numpy	ビッグデータ	機械学習	人工知能	ディープラーニン グ	TensorFlow
	0	45					
	1	50					
	2	55					
	Name	: weight, dtype:	int64				

# グラフにプロットする

最後に、GroupByオブジェクトに対して処理を施した結果をグラフにしてみやすく しましょう。

.plot で可能です。

```
In [120]: fig = plt.figure(figsize=(12,8))

<Figure size 576x864 with 0 Axes>

In [121]: ax = fig.add_subplot(1, 1, 1)

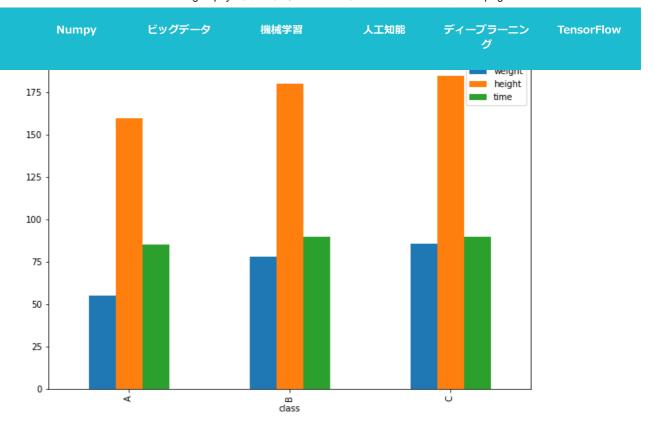
In [122]: df.groupby("class")[["weight","height","time"]].max().plot.bar(ax=ax)

Out[122]: <matplotlib.axes._subplots.AxesSubplot at 0x1136b11d0>

In [123]: fig.savefig("group_sum.png")
```

以下のようなグラフが保存されます。

すべて



## まとめ

今回はグルーピングの処理についてまとめました。 グルーピングの処理ではデータを分けるSplitting、処理を実行するSpplying、結果を結合するCombiningの3つのステップに分かれていると冒頭で説明しました。この処理の流れが頭の中で把握しているとGroupByオブジェクトを利用する際にあまり混乱が生じずに済むかと思います。

groupby関数を使ったグループ分けの処理は色々な使い道があり、これを使いこなせるようになるとデータ処理がかなり楽にできるようになるはずです。

## 参考

• Python for Data Analysis 2nd edition -Wes McKinney(書籍)

すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン TensorFlow グ

ツイート いいね! シェ

## DeepAgeではAIに関する厳選した内容を記事にしてお届けします。 気に入って頂けたら応援お願いします!

フォローする

いいね 🚯 Follow

# 人工知能(AI)技術の事業活用に 興味はございませんか?

DeepAgeでは人工知能開発に関するあらゆるご相談を随時受け付けております

会社概要はこちら

事業概要・実績はこちら

お問い合わせはこちら

# Pedale Age Atminopedage Age Atminopedage

すべて Numpy ビッグデータ 機械学習 人工知能 ディープラーニン **TensorFlow** DeepAge 人工知能・機... このページに「いいね!」 1,311 [(1) すべて トップページ ビッグデータ 採用情報 機械学習 運営会社 DeepAge 人工知能・機械学 習・データビジネスに役立つ 人工知能 お問い合わせ 記事を紹介 ディープラーニング プライバシーポリシー 約2年前 TensorFlow 個人情報の取り扱い ブログのNumPyコラムが本になりました NumPy **RSS Pandas** NumPyの基本からニューラルネットワー クの構築まで実践的な書籍として翔泳社 様から出版されました。 社員研修や勉強のため、業務のために手 ニに塞いてもまたいたもじ目むも思いむ © Spot Inc. 2016